

たぐし

12

December.2022

第41回 全国豊かな海づくり大会兵庫大会記念号



前日リハーサルの様子

第41回国 豊かな海づくり大会

大会日程

11月13日(日)	式典行事	会場：明石市立市民会館
	海上歓迎・放流行事	会場：明石港ベランダ護岸
関連行事	豊かな海づくりフェスタ2022	会場：県立明石公園
サテライト会場	ぼうぜ鯖祭り	会場：妻鹿漁港(姫路市)
	浜坂みなとカニ祭り	会場：浜坂漁港(新温泉町)
	淡路水産まつり	会場：道の駅あわじ(淡路市)



式典行事

式典プログラム

プログラム	出演者等
開場・兵庫県紹介映像	
大会概要説明	
兵庫の五国と海の紹介	
シーン1 1960～1970年代の海 現在の摂津・播磨の海	兵庫県立夢野台高等学校 坂越の船祭(映像)
シーン2 1970～1990年代の海 現在の但馬の海	近畿大学付属豊岡高等学校 宇都野神社麒麟獅子舞保存会
シーン3 1990～2010年代の海 現在の淡路の海	兵庫県立洲本高等学校 (公財)淡路人形協会 淡路人形座
シーン4 2010年代～現在の海 豊かな海を目指す取組	兵庫県立明石高等学校
受賞者映像紹介	
登壇者紹介・式典補助員紹介	登壇者 式典補助員：兵庫県立明石高等学校
歓迎演奏	指揮：佐渡裕 演奏：スーパーキッズ・オーケストラ
天皇皇后両陛下下御臨席	
大会旗入場	鼓笛隊：長寿院保育園 旗手団：兵庫県立香住高等学校 兵庫県議会議長
開会のことば	兵庫県漁業協同組合連合会 代表理事会長
国歌演奏	指揮：佐渡裕 演奏：スーパーキッズ・オーケストラ
主催者あいさつ	大会会長、兵庫県知事
歓迎のことば	明石市長
天皇陛下のおことば	

表彰(功績団体等)	功績団体表彰受賞者代表 作品コンクール受賞者代表
最優秀作文の発表	大会会長賞受賞者代表
稚魚等のお手渡し	お受け者：小磯富男、中村勲 大西賀雄、渡辺昭良 介添え：兵庫県立明石高等学校
【現在から未来へ決意～】 次世代からの豊かな海へのメッセージ	若手漁業者：若林良・千恵子夫妻 山崎大輔・智夫妻 川越大喜(VTR出演) 若手研究員：高倉良太 高校生ナビゲーター： 兵庫県立夢野台高等学校 近畿大学付属豊岡高等学校 兵庫県立洲本高等学校 兵庫県立明石高等学校
大会決議	豊かな海づくり大会推進委員会会長
大会旗引継、 次期開催地あいさつ	兵庫県知事、北海道知事
閉会のことば	兵庫県議会議長
天皇皇后両陛下下御退席	
エピソード	表彰式 【未来への希望 ～つなぐ～】 エピソード
	功績団体表彰受賞者 作品コンクール受賞者 植村花菜 スーパーキッズ・オーケストラ 明石市立中崎小学校



式典会場



開会のことば 兵庫県漁業協同組合連合会
代表理事会長 田沼 政男

兵庫大会 ～御食国ひょうご～

天皇陛下のおことば

第41回全国豊かな海づくり大会が、昭和57年の第2回大会以来、再びここ兵庫県で開催され、皆さんと共に出席できることをうれしく思います。

四方を海に囲まれた我が国は、古くから豊かな海の恵みを受してきました。また、山や森から河川や湖を経て海へ至る自然環境と、そこに育まれる生命や文化は、私たちに様々な恩恵をもたらしてくれます。この豊かな海の環境を保全するとともに、水産資源を適切に保護・管理し、次世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な使命です。

高度経済成長の時代、兵庫の海も、水質汚濁の深刻化による赤潮の発生や、それに伴う漁業被害などの問題に直面しましたが、関係者の努力により、徐々に水質の改善が進んだほか、昭和57年に当時の城崎郡香住町で開催された第2回全国豊かな海づくり大会以降、県内各地で栽培漁業の推進や、漁場の整備などが行われてきたと聞いています。

平成7年の阪神・淡路大震災では、水産業を含め、甚大な被害が発生しました。今日に至るまで、多くの被災者が共に助け合いながら復興を成し遂げ、その経験と教訓を将来にわたって伝え続ける歩みが進められていることに、心から敬意を表します。

現在、兵庫県においては、日本海と瀬戸内海で、それぞれの海域の特性に応じた多彩な漁業が営まれていると聞きます。また、瀬戸内海を豊かで美しい海として次世代につないでいくため、森、川、里、海のつながりの中で多様な生態系を保全できるよう、ため池の掻掘や海底耕うんなど、様々な意義深い

取組が進められていると聞いています。

近年は、新型コロナウイルス感染症などの影響もあり、水産業に携わる皆さんの御苦労もいかばかりかと思いますが、本日表彰を受けられる方々を始め、全国各地において日頃から豊かな海づくりに取り組んでいる皆さんのたゆみない努力に深く敬意を表するとともに、こうした活動が、今後とも多くの人々によって支えられ、更に発展していくことを期待します。

「広げよう 碧く豊かな 海づくり」をテーマとして行われるこの大会を契機として、海や漁業への理解と関心が更に深まり、豊かな海づくりの輪が、ここ兵庫県から全国へと広がっていくことを願い、私の挨拶といたします。



主催者あいさつ

全国豊かな海づくり大会会長 衆議院議長 細田 博之

天皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会が開催されるに当たり、主催者として一言御挨拶申し上げます。天皇后両陛下におかれましては、新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても、全国各地へのオンラインによる行幸啓などを通じ、国民に寄り添われてこられました。本日は、三年ぶりに全国豊かな海づくり大会の会場への御臨席を賜り、まことにありがたく存じます。

今大会は「広げよう 碧く豊かな 海づくり」をテーマに、ここ兵庫県において開催されます。兵庫県での開催は昭和57年の第2回大会以来であり、二度目の開催は全国で初めてとなります。この間、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災では、県内の水産関係施設も大きな被害を受けましたが、復旧・復興が進んだ今、本大会がその経験と教訓、皆様からの支援に対する感謝を発信する機会となることを期待しております。



兵庫県は、古くは万葉集において、皇室や朝廷に海産物などの食料を献上する「御食国」と詠まれた淡路など、農林水産物の一大供給地として発展してまいりました。特に、北は日本海、南は瀬戸内海と紀伊水道に面する特性を生かした水産物は、全国的なブランドとして認知されている商品も多く、我が国有数の多彩さを誇ります。これからも四季折々の豊かな水産物を安定的に供給するため、兵庫県では、生物生息環境の保全・回復や次の世代を担う漁業者の育成と所得向上などに精力的に取り組んでいるとお聞きしております。

本日、榮えある表彰をお受けになる方々に対し、心より敬意を表しお慶びを申し上げます。また、お集まりの皆様には、次の世代へ豊かな海を継承するため、今後とも御尽力を賜りますようお願いいたします。結びに、大会開催のため力を尽くしてこられた関係者の方々に厚く御礼を申し上げ、御挨拶といたします。

式典行事

◆ 主催者あいさつ

兵庫県知事 齋藤 元彦

本日、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会～御食国ひょうご～」を開催できますことは、私たち兵庫県民にとりまして、誠に光栄であり、この上ない喜びであります。

ここ兵庫での開催は、第2回大会以来、40年ぶりとなります。御来賓をはじめ、全国から御参加いただきました皆様を心から歓迎いたしますとともに、本日栄えある表彰を受けられる皆様に、心からお祝いを申し上げます。

また、阪神・淡路大震災からまもなく28年を迎えるにあたり、これまでのご支援に改めて感謝申し上げます。

さて、日本の縮図といわれる兵庫は、日本海と瀬戸内海、太平洋に続く紀伊水道の3つの海に面し、海域ごとに様々な漁業が営まれています。

瀬戸内海では、生態系に不可欠な栄養塩類の管理をはじめ、豊かで美しい海を創出するための取組を、漁業者、そして多くの県民の参加により進めています。

今大会のテーマは「広げよう 碧く豊かな 海づくり」です。SDGsの理念にも通じる取組の輪を、次世代に繋いでまいります。

結びに、天皇皇后両陛下の御健勝を心からお祈り申し上げますとともに、本日御参加の皆様の御多幸を祈念いたしまして、挨拶いたします。



◆ 歓迎のことば

明石市長 泉 房穂

本日、ここに天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、「第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会～御食国ひょうご～」が明石市で開催されますことは、誠に光栄であり、心から感謝申し上げます。

また、本大会にご参加いただきました皆様を、市民を代表いたしまして、心から歓迎申し上げます。

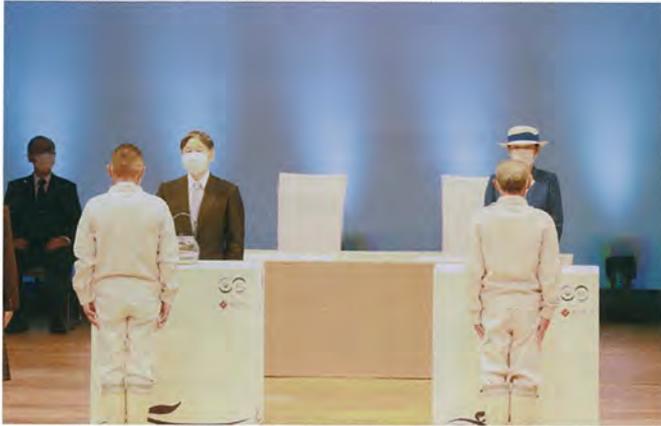
ここ明石市は、古来より万葉の歌人達に詠われた風光明媚な海岸線をはじめ、田畑、ため池など豊かな自然に恵まれたまちです。また、明石海峡の起伏に富んだ海底や複雑な潮流により育まれる、瀬戸内海有数の好漁場であり、タコ・鯛・ノリなど、多くの水産資源の宝庫となっております。

この明石のたからものである「豊かな海」を、我々はこれからも全力で守り続け、未来の子ども達へ引き継いでまいりたいと存じます。

結びに、天皇皇后両陛下のご健勝を心からお祈り申し上げますとともに、本日ご参加の皆様のご多幸を祈念申し上げ、私からの歓迎の言葉とさせていただきます。



● 稚魚等のお手渡し



両陛下からお手渡し



マダイ

潮流の速い海峡部で漁獲される「明石鯛」は全国的に有名なブランド魚となっており、淡路島では、「淡路えびす鯛」の名前で親しまれている。



キジハタ

漁獲量も少ないことから高級魚として扱われており、毎年約4万尾の稚魚を県下各地で放流している。



ノリ

近年、海域環境の変化により生産が不安定になっており、栄養塩類の適正管理や高水温耐性品種の開発に取り組んでいる。



アユ

環境保全をシンボルとして毎年約32トンの稚魚を県下各地で放流している。

稚魚等のお受け者



南あわじ漁業協同組合
代表理事組合長 小磯 富男氏



但馬地区栽培漁業推進協議会
会長 中村 勲氏



明石市漁業組合連合会
会長 大西 賀雄氏



兵庫県内水面漁業協同組合連合会
副会長理事 渡辺 昭良氏

● 第41回全国豊かな海づくり大会 大会決議

豊かな海づくり大会推進委員会 会長 坂本 雅信

四方を海に囲まれた日本は、豊かな海の恩恵を享受し、固有の風土と歴史に根差した彩りある魚食文化を培ってきた。

ここ兵庫県は、北は日本海、南は瀬戸内海、太平洋に続く紀伊水道に面し、3つの海がもたらす四季折々の水産物は、食の多様性を育むとともに、地域産業の発展に重要な役割を果たしてきた。

私たち水産関係者は、環境・生態系の保全と水産資源の保護・管理に弛まぬ努力を続けるとともに、国民への水産食料の安定供給を果たしていく責務がある。

本年は、ここ兵庫県において、「^{あお}広げよう 碧く豊かな 海づくり」を合言葉に、豊かな海の創造に取り組む姿を内外に示し、その取組の輪が広がるよう、新たな決意を持って、^{ほうじょう}豊穰の海を守り育てていくことを、ここに決議する。



式典行事

次世代からの豊かな海のメッセージ

摂津・播磨



若林 良・千恵子 夫妻
すまうら水産有限責任事業組合 副代表

No.1

【夢野台高校 稲葉遥香】

今回の取材を通して、リアルな漁業・海を感じることができました。

初めて現場を目の当たりにした今回の取材で漁業や海のイメージが全く違うものになりました。

子供や女性を含め漁業を支えている方々の生の声を聞き、そんな皆さんによって成り立っている漁業の現場を見ることができ、海の豊かさについて考える良い機会になりました。

【若林良】

私は、サラリーマンの家庭で育ち、父と同じアパレル業界で働くことを目指し大学に進学しましたが、在学中にすまうら水産の代表と出会い、須磨の海と漁業に魅了され、漁師になりました。

今は、仲間達とともにノリ養殖を中心に様々な漁業を営む一方、須磨の海の魅力を多くの方に知ってほしくて、潮干狩り場の運営にも携わっています。

No.2

【夢野台高校 稲葉遥香】

実は私は魚が苦手です。家族も苦手なので食べる機会が少ないです。どうすれば魚を好きになれ

るか教えてください。

【若林千恵子】

私達は、多くの人に海について知ってもらうため、今年「Suma豊かな海プロジェクト」を立ち上げました。

須磨に来て私達と一緒にイベントに参加してください。そして美味しいお魚を食べてください。須磨の新鮮な魚を味わったら、きっと魚が好きになります。

No.3

【夢野台高校 稲葉遥香】

取材では親の姿を見て漁師になったという方がたくさんいて、実は魅力的な職業なのだ気づかされました。

漁業に携わる皆さんが豊かな海を未来へ繋いでいく存在であることは間違いありません。私達も海に関心を持ち続けていきますから、豊かな海を未来へ繋いでいってください。

【若林良】

地域の漁業を守るためには、みんなが力を合わせ豊かな海づくりに取り組み、若い後継者を育てることが重要と考えています。漁業を次の世代に受け継ぎ、地域と共に発展させるため、持続可能な漁業を目指します。

但馬

No.1

【近大付属豊岡高校 池垣莉乃】

但馬は松葉ガニ漁の真っ最中のため、事前にメッセージをいただきました。御覧ください。

(浜坂漁協川越さんVTR)

但馬にとってズワイガニ漁とは？

ズワイガニ、松葉ガニというブランドを築くために頑張ってきましたし、近くに城崎・湯村温泉などあります。ズワイガニ、松葉ガニが食べたくてくるお客さんが多いのもありますし、観光・水産業においても大きな影響を与えているものだと思います。

取れなくなった時期の対策は？

年々、獲れなくなってきているんですけども、漁場の中で網の入れられない地域を、カニを保護するために作るなど、資源管理に取り組んでいます。

但馬地域で漁業全体で問題は？

ここ但馬、山陰地方では、沖合底引き船の廃業が続いています。過去には100隻以上あったと聞いていますが、現在は40隻ぐらいまで減ってしまいましたので、このままでは地域経済を支えられなくなるのではと思っています。

漁業問題の原因は何は？

乗組員なども高齢化していて次の若い乗り手がない。日本の若者にも、漁業という職業を選択し

て頑張ってもらいたいです。

後継者問題への対策は？

平成30年に、安全で快適で儲かる漁業を目指して、国や県の支援も頂き、新しい船をつくりました。若い世代の人たちにも、漁業という職業を選んでもらえるように、魅力的な産業に変えていくことも、僕たちの仕事だと思っています。

No.2

【近大付属豊岡高校 池垣莉乃】

私は自分が住んでいる地域の漁業について知らないことがたくさんありました。今回の取材を通して、もっと多くの人に但馬のズワイガニを知ってほしいと感じました。

普段直接関わることの少ない漁業関係の方の生の声を聞くことができ、自分にとっての「海の豊かさ」というものを深く考える機会になりました。

また、私達高校生が将来を考えるときに、もっと多くのことを知ってから決めていく必要があると感じました。

漁業者のお仕事は大変だと思いますが、今漁業に携わっている皆さんが未来に豊かな海を繋いでいく存在だと思います。ズワイガニが溢れる但馬の豊かな海を未来に繋いでください。



浜坂漁業協同組合
幸栄丸 船長
川越 大喜

淡 路



山崎 大輔・智 夫妻
兵庫県漁業青壮年部連合会 会長

No.1

【洲本高校 小林大起】

今回の取材を通して、イカナゴをはじめとする瀬戸内海の漁獲量が、目に見えて減っているという漁師さんの生の声を聞くことができました。

その原因は、海の栄養塩類が減少する「貧栄養化」だと考えられ、漁師の皆さんは自主的な資源管理と並行して、海を耕す「海底耕耘」やため池の「かいぼり」に取り組んでいるという事実を知ることができました。

【山崎大輔】

私は、淡路島岩屋で生まれ、祖父と父の背中を見て育ち、自然と家業の船びき網漁業に従事するようになりました。長年、日々海に出て操業していると、年タイカナゴが獲れなくなり、魚は痩せ、海が貧栄養化していることをヒシヒシと感じます。

No.2

【洲本高校 小林大起】

「海底耕耘」や「かいぼり」もその効果がどれほどあるか分からないと伺いましたが、漁師の皆

さんの真剣な表情を見ると、私達にもできることがあるのではないかと感じています。

プラスチックごみの問題は広く知られ、海の環境保全が叫ばれていますが、窒素などの栄養塩類をこれ以上海から奪うことがないように、放送部員として警鐘を鳴らしていきたいと考えています。

美味しいイカナゴのくぎ煮がいつまでも食べられる豊かな海を次世代に繋いでください。

【山崎智】

かつて御食国（みけつくに）と呼ばれた淡路島には、海にも陸にも美味しい食材がたくさんあります。

私達は若手漁業者と農業者が協力して淡路島の食材の販売促進にも取り組んでいます。次の世代に魅力的に映る儲かる漁業にしていきたいと考えています。

【山崎大輔】

是非、プラスチックごみの削減に取り組み、取材を通じて学んだ瀬戸内海の現状を皆さんの力で発信してください。

私達は、今まで生かしてもらった海に感謝し、できることから豊かな海づくりに取り組み、資源を大切に守りながら漁業を続けていきます。

兵庫の海（水産技術センター）

No.1

【明石高校 安橋くるみ】

今回の取材を通して、豊かな海ときれいな海はイコールではないことや、豊かな海を目指す取組にたくさんの人が関わっていることを知り、豊かな海を取り戻すことがどれだけ大切で難しいことなのかを痛感しました。

私達のような一般の人にもできることを考えなければならぬと思いました。

【高倉良太 研究員】

水産技術センターでは、漁業資源や海の環境、養殖技術など、兵庫県の水産業に関わる様々な課題の解決に向けて、試験研究に取り組んでいます。

私は今、養殖されたノリを食べてしまう、クロダイという魚の生態を研究しています。海の豊かさが失われ、本来食べていた餌が少なくなった事が原因なのかも知れません。

魚の生態を研究することで、人と魚が共存できる豊かな海を目指しています。

No.2

【明石高校 安橋くるみ】

この大会に関わらせていただくまで、私達は豊かな海とは何かを考えることがありませんでした。

海に触れる機会が多い皆さんだからこそ、私達の知らないことをたくさんご存じのはずです。今、瀬戸内海がどうなっているのか、豊かな海とは何なのか多くの人に伝えてほしいです。

私達も任せきりにするのではなく、自分たちができることは何かを考え、豊かな海を繋いでいくことができるように努力します。

【高倉良太 研究員】

私は、多種多様な魚介類がバランスよく生息し、様々な種類の漁業が成り立つ海こそ、豊かな海ではないかと考えています。そのため、一つの事象にとらわれることなく、海の中の様子を複合的に考えられる技術者になりたいと思います。

みなさんが取材を経てイメージした「豊かな海」を、子どもや孫の世代、そしてその次の世代へと受け継いで行けるよう、私は試験研究を続けます。



兵庫県立農林水産技術総合センター
水産技術センター 主任研究員
高倉 良太

海上歓迎

海上歓迎・放流行事プログラム

プログラム		出演者等
招待者会場移動・整列		
歓迎演奏		吹奏楽演奏：兵庫県立明石南高等学校 和太鼓演奏：神戸市須磨翔風高等学校
進行概要説明		
海上歓迎・放流行事	天皇皇后両陛下放流会場到着	
	海上歓迎行事	漁船団パレード御覧 漁 船 団：約100隻 吹奏楽演奏：兵庫県立明石南高等学校
		漁法紹介 漁 船：10隻 和太鼓演奏：神戸市須磨翔風高等学校
	放流行事	第1回御放流(マダイ) 吹奏楽演奏：兵庫県立明石南高等学校
第2回御放流(ヒラメ) 介 添 え：兵庫県立香住高等学校		
天皇皇后両陛下放流会場御発		
フェアウェル演奏		和太鼓演奏：神戸市立須磨翔風高等学校
終了		



海上歓迎行事



漁船団パレード



漁法紹介

放流行事



両陛下の御放流



招待者の放流

放 流 行 事

● 漁船団パレード参加者 ●



明石地区



神戸地区



淡路地区

● 漁法紹介参加者 ●



第55戎丸、第56戎丸、第57戎丸



第21松本丸



機船船びき網漁業



ノリ養殖業



明石丸



志麻丸



小型底びき網漁業



五智網漁業

海上歓迎

● 漁法紹介参加者 ●



たこつぼ漁業



一本釣り漁業



兵庫県漁業取締船



兵庫県漁業・環境調査船

漁法紹介参加者名

漁法紹介船			
J F 神戸市	第五拾六戎丸	機船船びき網漁業	前田 昭俊
	第五拾七戎丸		柿山 強
	第五拾五戎丸		前田 暢宏
J F 西二見	第21松本丸	ノリ養殖業	松本 久進
J F 江井ヶ島	明石丸	小型底びき網漁業	橘 宏明
J F 淡路島岩屋	志麻丸	五智網漁業	濱田 直樹
J F 林崎	住吉丸	たこつぼ漁業	増本 良生
J F 明石浦	明石丸	一本釣り漁業	柏木 泰裕

放 流 行 事

漁船団パレード参加者名

漁船団パレード		
明石地区	ひがしふたみ丸	高橋 仁三男
	住吉丸	西尾 幸洋
	第21豊漁丸	西田 博計
	龍宮丸	大西 絢太
	西福丸	西尾 俊哉
	第十山本丸	橘 竜大
	第七松本丸	松本 一輝
	第八松栄丸	松岡 功
	第一明和丸	西岡 慎介
	海友丸	濱田 研一
	住吉丸	仲西 利之
	浜田丸	濱田 三郎
	えいがしま丸	橘 隆幸
	はやしさき丸	鈴木 宏
	第五住吉丸	高濱 功匡
	村由丸	隅谷 文太
	住吉丸	藤原 資大
	住吉丸	高濱 孝介
	住吉丸	中谷 佳寛
	恵美寿丸	山本 竜也
	住吉丸	石井 秀人
	住吉丸	富田 芳美
	住吉丸	福山 貴久
	住吉丸	赤穂 和哉
	住吉丸	加島 義春
	明石浦丸	鳥居 克行
	明石丸	大西 佳尚
	明石丸	石定 政美
	明石丸	角田 明大
	明石丸	石定 芳樹
	明石丸	石定 正寛
	明石丸	角田 成章
	明石丸	竹本 勝之
	明石丸	竹本 竜臣
	明石丸	槌井 章泰
	明石丸	鳥居 源輝
	明石丸	鳥居 大地
	明石丸	井上 茂生
	明石丸	戎谷 道男
	明石丸	網代 隆義
	明石丸	網代 知幸
	明石丸	魚谷 忠弘
	明石丸	若松 正彦
明石丸	坂東 薫	
明石丸	生田 光夫	
明石丸	山本 博之	

漁船団パレード			
神戸地区	第二こうべ丸	森 敦二	
	住吉丸	尻池 宏典	
	戎丸	宮崎 幸太	
	住吉丸	尻池 知之	
	第十二進昭丸	緒方 信	
	第五繁丸	岡田 康孝	
	忠義丸	福田 康弘	
	第五海生丸	長原 重勝	
	海神丸	西村 和基	
	海神丸	榎井 勝博	
	海神丸	森 奈雄也	
	第六福丸	横田 佑輔	
	第三住吉丸	湯本 政次	
	海洋丸	糸谷 安一	
	第五十三宝海丸	山田 智昭	
	淡路地区	共和丸	岸本 保
		義丸	粟津 隆信
		住吉丸	坂尻 敏也
		一広丸	上野 年広
		第一若宮丸	仲田 英樹
		住吉丸	中山 大輔
共和丸		東根 大介	
住吉丸		嶋本 優志	
住吉丸		大平 純司	
第二昇栄丸		山市 久明	
住吉丸		西田 幸二	
住吉丸		吉田 武史	
住吉丸		原 一平	
菱丸		菱谷 務	
住吉丸		清原 新一郎	
一馬丸		山崎 孝生	
豊漁丸		藤田 明	
恵見丸		恵見 一則	
菱秀丸		菱谷 秀巳	
住吉丸		橋本 泰士	
住吉丸		柳川 具視	
豊昭丸		飛田 勝	
新生丸		柿本 貴生	
蛭子丸		柿本 臣則	
戎丸		中山 勲	
戎丸		金丸 学	
住吉丸		上坂 諒介	
住吉丸	山本 忠弘		
戎丸	中舎 義博		
住吉丸	高田 一宏		

座談会

「全国豊かな海づくり大会 兵庫大会」を振り返って

東根 先週開催された全国豊かな海づくり大会兵庫大会について、公式記録集には書かれない漁業者の関わりを拓水に書き留めておくため、座談会を開催しました。本日はざっくばらんにお話し下さい。

● 大会での関わりについて

小林 今大会には、たくさんの漁業関係者が関わりましたが、まず、皆さんの役割や関わりについてお聞かせ下さい。

田沼 両陛下と漁業関係者との御懇談で、ホテルオークラで表彰された人達を陛下に紹介させていただいた。天皇陛下は予定時間をオーバーして気さくに話しをされました。あとは大会実行委員会副会長として開会宣言をさせていただいた。

突々 私の役割としては、大会実行委員会の下の幹事会の副委員長をさせていただきましました。作品コンクール、テーマソングや大会テーマの審査員もさせていただいた。大会の当日は、前日から全漁連の坂本会長を接伴して、どうして豊かな海の取り組みをするのか、どうして2週目のトップバッターがうちになったのか、そんな話をしました。

樂 私の方は放流魚のマダイとヒラメ、それからお手渡し、ご観覧用のマダイとキジハタを生産して供給する役目でした。1年前イベントではヒラメがずいぶん大きくなりましたが、飼育時期を調整し、大会本番では良いサイズの種苗ができました。

戎本 私は、漁船団パレードの部会長という役をやらしてもらいました。また大会までの準備でお魚総選挙に関わらせてもらったり盛り上げの方に協力してもらいました。

小林 長島さんは聞くまでもありませんが。

長島 まずは改めまして皆さん大変お世話になり、ありがとうございます。海づくり協会さんにはお手渡し魚の放流のところで最後までお世話になっております。大会の方はうちのメンバーが全部やってくれましたので、私は特に何もしていませんが、系統の皆さんに人乞いと物乞いをさせていただいた。100名程動員をお願いし、職員のみなさまにご協力いただきました。放流の準備ではずぶ濡れになって準備していただきました。あと大会弁当の食材を漁連さんをお願いして提供していただいて、お弁当の方も評判が良かったと聞いています。あとは大会PRのところで極力協賛行事の方には行って周知を図ってきました。

小林 ありがとうございます。では最後に東根理事長をお願いします。

東根 両陛下が水産会館で御休の際のご先導役ということで、この度素晴らしい役をいただきましてありがとうございます。感動と感謝しかありません。

● 大会を終えた気持ちについて

小林 ありがとうございます。平成30年に開催が決定して、コロナで1年延びて、心配していましたがけれども両陛下にご臨席いただいて、成功裏に終わりました。今のお気持ちを聞かせて下さい。

田沼 今の気持ちはホッとした、やれやれ。それまでずっと緊張していたから、それが本音。放流のあとで陛下から「漁獲はどうですか。」と聞かれて「3、40年前の10分の1以下にはなりました。」と答えた。また、「漁師の人もかいぼりするんですね。」と聞かれて、「今はもう海に栄養がないから私らが農家の人と一緒になって池を抜いて、それが栄養の足しになると思ってやっています。とにかく魚が減っています。」と答えた。「漁師何年やってるんですか。」と聞かれて、「50年です。磯焼も進んでやっぱり栄養がないから魚が隠れるところがありません。」というような話をさせていただいた。陛下の挨拶の時にかいぼりと海底耕耘の話がでてきたのは、ものすごい値打ちがあったと思います。それを全国の皆さんに聞いてもらえたことは、私は良いことだなと思いました。

小林 それも大きな成果ですね。

突々 終わって1番最初に思ったのは、式典の中でよくここまで豊かな海の中身をストレートに表現できたなと思います。私はいっぱい豊かな海の話



座談会 出席者

を10年以上前からやっていたけど、ようやくできたなという感じで、それには感謝でした。今まで全国海づくり大会に参加して、今大会の中で豊かな海をアピールできるだろうか、というのが実は心配でした。貧栄養塩とかどんな言葉で表現をするのだろうかと思っていただけ、高校生や放送部が現場調査をし、ああいう表現をしたのが見事だったと思います。

樂 放流魚がマダイとヒラメに決まった時は長年飼育してきた経験があったので、この2魚種なら失敗はしないだろうと考えていたんですけどその後3年、病気で稚魚が死んでしまったり、バケツ試験でうまく畜養ができなかったり、本当に色々ありました。育成期間中の一番のリスクが病気です。このリスクを回避しようとしたら、手間はかかりますが水槽の数を増やすしかないんです。そういう苦労したこともあっての本番、両陛下が放流された時は、音を立てて気が抜けていき、終わったんだと強く思いました。

戎本 感謝やね。やっぱり100隻できて良かった。天気が悪い為、パレードも含めて開催の判定会議が前夜の9時と当日朝5時に開かれる。その前に部会長として意見を聞かせてほしいと連絡があったりして、緊張して眠れなかった。海上パレードの直前雨やんで風が無い、淡路島が見えて、あれは奇跡的だなと思った。

田沼 県のスタッフは本当によく頑張ってくれたと思います。

戎本 式典も含め、全てにおいてよく頑張ってくれたと思います。(涙ぐむ)

小林 ありがとうございます。長島室長はなにかありますか。

長島 今回、高校生とか出演してくれたんですけど本当に頑張ったと思います。中崎小学校の児童も良かった。本番は本当にピシッとやってくれました。すいません、もらい泣きしてしまふ。

東根 ホッとしたんやろう。県の人から漁業者からみんな一丸となってこういう大会が出来たと思うし、パレードにしてもリハーサルの時に台風もあったし、色んな事があったもんね。

田沼 長かったからな、1年延びて余計苦労したと思う。

東根 本部長含めて担当の人は大変やったと思うし、最後に正直感謝というかこれだけのことがやれたというのが本当素晴らしいと思う。やはり兵庫県の力やなと思います。

戎本 スタッフも参加者も皆がひとつになったように思えた。

田沼 それが報われて雨が上がったのかもしれない。

● 今大会開催のきっかけについて

小林 未開催県があるなかで、兵庫県が2巡目トップバッターで開催したこの兵庫大会。兵庫県からの働きかけが切っ掛けだったとお聞きしていますが。

田沼 明石市長と明石市選出県会議員と明石の水産の将来について意見交換する夕食会があり、陛下のお代替わりが決まった頃で、海づくり大会を開催したら新天皇陛下にお越しいただけるのではないかという話題になった。

突々 漁連と明石市がタッグを組んで、兵庫県に要請に行って決定した。この3年間、コロナや台風があって陛下が初めて放流行事に参加される大会になりました。

戎本 天皇陛下がご挨拶でかいぼりや、海底耕耘に触れていただいた。

東根 きっちり、入れていただいた。

田沼 あれを聞いて苦労は報われたという感じ。皆一生懸命、職員も手伝いながらやってくれたから。

戎本 他県から来た人に、自主的で手作り感があって素晴らしい大会でした。

パレードは漁業者からの発案だったことが素晴らしいと言ってくれた。
田沼 皆で作上げた大会やった。

● 漁船団パレードについて

小林 戎本組合長からも話が出ましたが、漁船団パレードは漁業者からの企画と会場でもアナウンスされていました。

東根 最初は県の方から何隻か出して下さいという話だった。

田沼 秋田大会の様子を見て、10隻程度の紹介だけではせがないと思った。

突々 漁船団が明石大橋と淡路島をバックに通って行ったらすごいですねと会長に言いました。

戎本 200隻くらい出せるだろとの声もあった。100隻になったけど。

田沼 100隻でもみんなすごい船数やなって言っていた。

突々 陛下も言われたんでしょ？

田沼 言われた。すごい数ですねって。

小林 漁業者からの企画ですが、他大会では例のない海峡筋でのパレードの実施については困難もあったのではないですか。

戎本 はじめはうちの役員さんに船出してもらって走ったところから始まり、本番までに漁法紹介、漁船団パレード、プレ大会も合わせたら何回も練習した。

長島 保安部には大変協力いただいた。

小林 明石海峡の3分の1くらいを通航自粛にしたんです。よくこんなことができたなと思いますね。

長島 ジェノバさんにも協力してもらった。

田沼 みんなの力やな。

突々 前の日の予報が注意報でした。実施を決める判定会議が晚9時と、翌5時で、議長は服部副知事でした。どうしても中止だけは避けたいと思ったので、中止の決定するなら翌朝にと、お願いしようとしたら、前夜に大会実施が決定したことを聞いてびっくりした。昨日、私が会長と御礼に行った時に、GOサインを前日出した理由を聞いたら、今まで皆が一生懸命やっているのを、無にしたくなかった。中止するのは簡単やったけどそんな訳にはいかんと思った、と答えられました。

長島 気象庁から雷雲注意報、波浪注意報の情報を入手していた。ただ兵庫県南部なので、明石とは限らない。戎本組合長から漁師さんの考えをずっとお聞きしていて、前日リハーサルされた漁師さんは、明日できると判断していることをお伝えていた。

田沼 風が吹かなかったのは、神懸かりだった。

東根 陛下の奇跡だ。

突々 止めてよかったね、あれ止めとったら悔いだけ残るものね。

長島 実施するとして、直前に無理になったら止めようという話だった。5時の状況見たらアウトってなっていましたね。

突々 直前どうしても無理ならやめる。すごい、ええ言葉やね。

● 大会の手応えについて

小林 大会では、豊かな海づくりについての発信や水産物の発信・提供を行いました。手応えは感じますか？

突々 まずエピソードとして、昨日、萬谷部長室に行かせてもらったのですよ。残念ながら部長はね、リハーサルしか見てない。鳥インフルエンザの対応の総指揮のため、弁当の試食はしましたけど、当日は会場にいなかったが五国弁当は皆から評判良かった。漁業者側の話はだいじしましたけど、長島さん、テーマソングはこれからどうするんですか。

戎本 あの歌ええな。

田沼 もったいないな。

突々 水産会館の玄関であの歌がかかっているだけで何かほっとするね。

戎本 子どもらが歌っている。覚えてますと言って、小学校で歌っていた。

長島 明石市内の学校で給食の時に流れてます。今後の使用には費用が必要になります。

小林 大会テーマの「広げよう 碧く豊かな 海づくり」も大会理念や漁業者の思いをよく表してますね。

突々 全漁連会長との話の中で、東京湾でも豊かな海のプロジェクがスタートしている。ぜひ参考にさせてもらおうと言われました。

小林 取り組みの輪が広がりますね。

田沼 広がると思う。11月16日、17日と東京の全漁連の70周年式典に行ったとき各県の会長達が来て、手作り感が出ている。それとパレード、淡路や明石大橋が見える絶景のところであれだけのパレードができるのは、兵庫は大したものですね、と皆に言っていた。

突々 今大会で豊かな海について多くの人に伝わったことを、私も東京の式典に出席して確信した。

長島 県議会の先生からも、今まで出席した多くの県のイベントの中でも最高の出来ばえと評価いただいた。

小林 関連行事でも漁業関係者が活躍されましたね。

長島 但馬では浜坂漁協さんと観光協会。姫路は坊勢漁協さん。淡路では水交会さんや青壮年部に頑張ってくださいました。

突々 県漁連も出店して情報発信をした。全ての会場ともに大きいスクリーンで式典を写したんでしょ？

長島 スクリーンは全部出しています。明石入れて4箇所。明石は土日に2万人ほどいらしてくれました。

田沼 2万人もいったの。

長島 浜坂のカニ祭りも盛況だったと聞いている。姫路は鯖祭りにお客さんが付いてる。

戎本 お魚総選挙にも関わらせてもらいましたが、兵庫の魚を知ってもらえる切っ掛けにはなったのでは。第1次っていう書き方しているのは、この大会を切っ掛けに2回、3回と続けてやって欲しいという思いからです。

● 天皇后両陛下の水産会館での御休について

小林 天皇后両陛下が水産会館にお越しになられた事は大会の実現に加えて大きな喜びではないですか。

東根 エレベーターの中で両陛下と4回も一緒にさせていただいて、その中で、「お声掛けをしていただいたことは、一生忘れないと思います。両陛下から「素晴らしいパレードでしたね、でもご苦労があったんですね。」とお声掛けをいただいて、「いやいや、皆さん、役員の方々が一生懸命やってこまでこれて、雨が止んだのも両陛下のおかげと思います。」と伝えました。大変いい取り組みをさせていただきまして、ありがとうございます。

戎本 ここ(第5会議室)で(両陛下)食事されたの。

突々 この辺です。

戎本 机は？

突々 机は休憩室の机。それにクロスを張って、椅子はホテルオークラの椅子が使われました。

● 今後の豊かな海づくりについて

小林 成功裏に終わった大会を今後活かしていきたいですね。

田沼 山田前会長から引き継いだ瀬戸法の改正が実現し、全国豊かな海づくり大会がようやく終わった。けどこれからが正念場。この大会を一過性のイベントにすることなく、レガシーを残すことが重要だ。まず豊かな海の情報発信を続けていく。また、これまでの取り組みに加えて、栄養塩類管理計画に沿って漁業者も海に栄養塩を供給していく。海の環境に応じた種苗の放流も重要。今大会を機に取り組みの輪が一層広がり、海の恵みを将来に渡り享受できる社会が実現することを期待したい。



兵庫県農林水産部
全国豊かな海づくり大会推進室
室長 長島 浩



兵庫県漁業協同組合連合会
代表理事会長
田沼 政男



兵庫県水産振興基金
理事長
東根 壽



明石浦漁業協同組合
代表理事組合長
戎本 裕明



兵庫県漁業協同組合連合会
専務理事
突々 淳



ひょうご豊かな海づくり協会
参事
楽 敦司



兵庫県水産振興基金
専務理事
小林 孝司(進行)

関連行事 サテライト会場

明石



姫路



淡路



浜坂



お魚総選挙 結果発表!

明石公園で行われた関連行事「豊かな海づくりフェスタ2022」では、第1次ひょうごお魚内閣総選挙の結果発表が行われ、初代総理大臣にはマダコが選ばれました。



*お魚総選挙とは瀬戸内海、日本海の水産物たちで兵庫県だけのお魚内閣を作ったら、どの魚が大臣に相応しいかを投票で決める、ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会との協賛行事。

● 天皇皇后両陛下の御視察など ●



漁業関係者とのご懇談（ホテルオークラ神戸）



御視察（兵庫県立水産技術センター）



御昼食（兵庫県水産会館）

基本理念

豊かな海づくりに向けた兵庫の取組を積極的に発信し、全国各地との交流を深めつつ、本県が目指す豊かな海の創出に向け、その取組を一層確実なものにするるとともに、海の恵みを将来に渡り享受できる社会の実現を目指します。

また、県内各地で水揚げされる水産物をはじめ、本県の多彩な魅力を広くアピールし、水産業の振興と地域の活性化を図ります。

基本方針

「豊かで美しいひょうごの海」の創出と継承

兵庫県の有力漁場である瀬戸内海では、水質が大きく改善した一方で貧栄養化が進行し、水産資源に悪影響が生じている状況を県内外に発信します。そして、森・川・里・海のつながりの中で、私たちの日々の生活が海と陸との栄養の循環に大きく関わっていることを県民・国民が認識を深めるとともに、栄養塩類の適正管理や藻場造成等の新たな沿岸域の保全等を通じ、人々の暮らしや社会の発展と調和した「豊かで美しいひょうごの海」を創出し、次世代につなぐための大会とします。

力強い水産業の確立と地域の活性化

日本海と瀬戸内海及び河川において、種苗の放流、魚介類の生息場の整備などによるつくり育てる漁業や、漁獲サイズ・量、採捕期間・場所などを制限する資源管理をさらに推進します。また、沖合漁業を主体とする日本海、漁船漁業と養殖業が盛んな瀬戸内海など、県内各地の地域の特性に応じて水揚げされる四季折々の水産物を使った魚食普及や食育活動などに加え、商工観光関連団体等との連携による水産物のブランド化や消費拡大を一層進めることで、力強い水産業の確立と地域の活性化につなげる大会とします。

「豊かで多彩なひょうごの魅力」の発信

かつて御食国^{みけつくに}と呼ばれた淡路島を有する兵庫県では、現代の御食国にたとえ、豊かな農林水産物を発信・提供する取組を進めています。そこで、この大会を通じ、日本海と瀬戸内海、さらには、そこに流れ込む多くの河川などで育まれた水産物をはじめ、摂津、播磨、但馬、丹波、淡路のひょうご五国が有する多様な気候・風土に育まれた農産物のほか、雄大な自然、特色ある歴史と文化など、「豊かで多彩なひょうごの魅力」を全国に発信します。さらに、県外の皆様を心のこもった「おもてなし」でお迎えし、また兵庫県に来たいと思っただけの大会とします。

大会テーマ

広げよう あお 碧く豊かな 海づくり

青色を意味する「碧」の文字を使い、植物プランクトン濃度が適切な海が全国に広がる期待が込められている。

大会キャラクター



「はばタン」

第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会～御食国ひょうご～ 大会テーマソング

いのちをつなぐ碧い海

作詞・作曲 植村花菜

豊かな海ってなんだろう？ きれいな海？澄んだ海？
見た目の美しさだけでは 豊かな海とは呼べないの

人も海もこの地球も ほし 巡ってつながる大きな輪
ぼくらの豊かな海を みんなで守っていききたいな

いのちをつなぐ碧い海は 未来への贈り物
生きとし生けるものすべてが
溶け合い創られていく恵み
みんなで一緒に考えよう ぼくらに出来ることを
碧く碧く豊かな海が いつまでも続きますように

命はぐくむこの海は 魚のため 人のため
たくさんの恵みをもたらす 大事な役目をしているんだ

山や川から流れくる すべてのいのちを大切に
ぼくらの豊かな海を 力を合わせて守ろうよ

いのちをつなぐ碧い海は 未来への贈り物
生きとし生けるものすべてが
溶け合い創られていく恵み
みんなで一緒に考えよう ぼくらに出来ることを
碧く碧く豊かな海が いつまでも続きますように

海から命が生まれ 海の恵みに生きて
ぼくらは豊かな海とともに幸せの輪になる

いのちをつなぐ碧い海は 未来への贈り物
生きとし生けるものすべてが
溶け合い創られていく恵み
みんなで一緒に考えよう ぼくらに出来ることを
碧く碧く豊かな海が いつまでも続きますように
碧く碧く豊かな海が いつまでも続きますように

● 大会会長賞受賞者代表作文 ●

「須磨のりを育む豊かな海」

神戸市東須磨小学校 6年生 廣田 絵美さん

みなさんは、須磨のりを食べたことがありますか。私が住んでいる須磨区は瀬戸内海に面していて、昭和の頃からのりの養殖が盛んです。今もとてもおいしいのりが採れることで有名です。

私はこの須磨のりが大好きです。食べるときに日にかざすと、黒色に光る不思議な模様が見えます。元旦に一の谷から眺めた、須磨の海が朝日に当たって、きらきらと輝いているのを思い出します。

なぜ、須磨ではおいしいのりが採れているのでしょうか。それは、山からの水が海に流れこみ、海の養分といっしょになります。そして、それらの栄養と潮の流れがおいしいのりを育てているからです。

また、養殖の仕事をしている人が頑張っているからです。9月には、のりの種付けが行われ、12月に始まるかり取りまで、のりは大切に育てられます。新聞で須磨のりの記事を見かけると、冷たい海の中で仕事を頑張っている人のことを考えます。

しかし、須磨のりは平成20年に生産量が大きく減りました。明石海峡で貨物船の事故が起こり、船から流れ出た油が海を汚してしまい、養殖業や漁業に大きな被害をもたらしたのです。その後は回復しましたが、今の状態にもどすまで大変だったと知りました。

私は学校で生物同士のつながりについて学びました。自然界では、動物や植物、プランクトンやび生物がたがいに支えあい、バランスを保ちながら、生きていくことを知りました。そのため、一度バランスがくずれると、元にもどすことはとても難しいのです。

今は須磨のりを食べることができても、海とその自然のバランスが守られなければ、将来、須磨のりは無くなってしまうかもしれません。のりだけではなく、海が私たちに届けてくれる恵みも無くなってしまってもいいかもしれません。

豊かな海を守るために、できることは何かと、考えました。

1つ目は、海と私たちがつながっていることを知ることだと思います。今年、私の学校は須磨海岸ビーチクリーンプロジェクトを行いました。先生や友達と須磨海岸を歩き、ごみを拾いました。海岸では、様々なごみが捨てられていて、レジ袋などのごみもありました。このままだと、将来、マイクロプラスチックが増えてしまい、環境に影響を与えてしまいます。最終的には人間の体に取り込まれることもあるそうです。海を守ることは、私たち人間を守ることもつながるのです。

2つ目は、海からの食べ物を食べ、多くの人に親んでもらうことです。日本は海に囲まれているので、海の食べ物が豊かです。日本の海からの恵を食べることで、身近な海のことも知ってもらい、海の自然に興味を持ってもらうことで、環境を守るきっかけにしてほしいと思います。

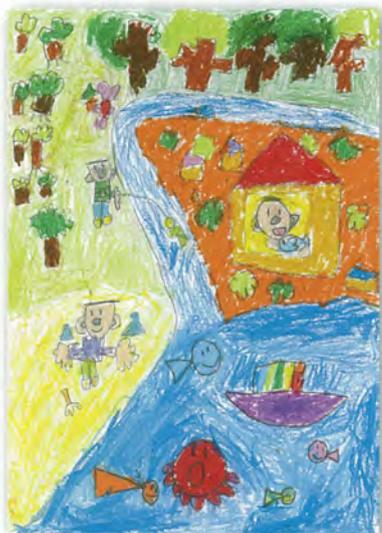
3つ目として、私が一番してみたいことは、海と山のつながりを強くする取り組みです。私は須磨のりから、山の自然を守ることが、海の自然を豊かにすることにつながると知りました。私の通う小学校と山の自然が豊かな地域の学校と交流を行いたいです。私は自然学校で行ったハチ高原で、山の自然の大きさを改めて感じました。そのような所に住んでいる小学生と友達になり、交流したいです。それぞれの住んでいる地域を紹介したり、一緒に海や山でとれるおいしい食べ物を食べたりして、自然を守る工夫や知恵をお互いに学び合いたいです。

私は須磨で生まれて、いつも海を身近に感じています。須磨の美しい風景と共に、その豊かな自然と恵がこれからもずっと無くならないでほしいと思います。

習字 コンクール

● 御覧作品（兵庫県知事賞） ●

絵 画



小学校低学年の部
姫路市立伊勢小学校 1年生
仁後 颯太さん
「もりとうみ」



小学校高学年の部
明石市立明石小学校 4年生
伊森 桜彩さん
「かいぼり」



中学校の部
明石市立江井島中学校 3年生
内田 真緒さん
「私が好きな海」

習 字



小学校低学年の部
姫路市立坊勢小学校 3年生
竹中 碧芭さん



小学校高学年の部
姫路市立坊勢小学校 5年生
敷谷 茜音さん



中学校の部
姫路市立坊勢中学校 3年生
桂 菜瑚さん

功績団体表彰

栽培漁業 部門

推薦	団体名	賞名
兵庫県	坊勢漁業協同組合	大会会長賞
北海道	(公社)北海道栽培漁業振興公社	農林水産大臣賞
山口県	(公財)下松市水産振興基金協会	環境大臣賞
広島県	(一社)広島県栽培漁業協会	水産庁長官賞

資源管理型漁業 部門

推薦	団体名	賞名
石川県	石川県底曳網漁業連合会	大会会長賞
兵庫県	兵庫県機船底曳網漁業協会	農林水産大臣賞
長崎県	水崎延縄船団	環境大臣賞
香川県	高松地区底曳網協議会	水産庁長官賞

漁場・環境保全 部門

推薦	団体名	賞名
兵庫県	矢田川漁業協同組合	大会会長賞
熊本県	御所浦地区壮青年部グループ	農林水産大臣賞
北海道	網走川流域の会	環境大臣賞
岩手県	閉伊川漁業協同組合	水産庁長官賞

お手渡し稚魚等の放流

全国豊かな海づくり大会の式典行事では、天皇陛下からマダイとノリを、皇后陛下からキジハタとアユをお手渡しされました。お手渡しを受けた稚魚はお受け者の地元で豊漁を祈念して放流されました。ノリは兵庫のり研究所に引き継がれました。

丸山漁港・海の展望広場前護岸で放流

マダイ



三尾で地元小学生児童等と放流

キジハタ



加古川で地元児童と放流

アユ



兵庫のり研究所

ノリ



